

## 住民意識の共有を目指したワークショップによる効果と課題 -高岡市吉久における事例研究その3-

準会員 ○今泉 優希\*  
準会員 重山 隼人\*  
準会員 栗原 稜\*  
正会員 有原 千尋\*\*  
正会員 藪谷 祐介\*\*\*  
非会員 田邊 元\*\*\*

重伝建 町並み 保全  
まちづくり ワークショップ コミュニティ

### 1 研究の背景と目的

富山県高岡市吉久(以下、吉久)は、2020年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区(以下、重伝建)に選定された。前稿では、重伝建に選定された時点における吉久住民全体の町並み保全意識、まちづくり活動に対する意識、生活満足度、目指すまちの姿<sup>1)</sup>と、それらの重伝建内外における相違<sup>2)</sup>を明らかにした。その後、公学民協働で新たなまちづくりの担い手発掘と活動体形成を目的とした連続ワークショップ「よっさまちづくり会議」を開催した。本稿では、第1回よっさまちづくり会議「知ろう、よっさ」の報告と、その効果や課題について検討することを目的とする。

### 2 調査方法

第1回よっさまちづくり会議を開催し、終了後にワークショップ(以下、WS)参加者に対するアンケートを実施した。このアンケートはよっさまちづくり会議の効果を検証し、今後のよっさまちづくり会議を運営する上での知見を得るために行った。調査項目は表1に示す。

表1 アンケート調査項目

アンケート項目	
属性	性別、年代、職業、居住地
イベント参加	参加動機(複数回答可)、満足度、その理由(記述式)、新たな発見や気づき
まちづくり活動	地域活動・まちづくり活動への参加状況、参加意識の変化、今後の吉久での参加意欲、吉久でやってみたい活動

### 3 第1回よっさまちづくり会議

第1回よっさまちづくり会議は、令和3年7月25日(土)13:30~15:30、場所は吉久公民館で開催した。対象は吉久に居住しているか否かに関わらず、吉久のまちづくりに関心のある者とした。主催はNPO法人吉久みらいプロジェクト、共催は吉久まちづくり推進協議会、吉久連合自治会、吉久公民館、後援は高岡市教育委員会、富山大学である。参加人数は55人であった。実施内容は令和2年11月に実施したアンケート調査の結果報告及

びWSである。WSでは、アンケートの結果を踏まえ、これからの吉久について住民それぞれが持つ考えを共有するために、「吉久の良いところ」「改善したいところ」という議題を設定し、1班7~8名、合計7班に分かれブレインストーミングを行った。その後、KJ法を用いて意見を整理し、最後に全体で共有を行った(写真1)。



写真1「知ろう、よっさ」

### 4 調査結果

#### 4.1 WSの結果

WS内で出てきた意見を以下の表2、3に示す。WS内で出た意見を分類したカテゴリーを表の左側に記載し、()内の数字は各カテゴリー内の意見の数を示す。表の右側には各カテゴリーの例としていくつかの事項を挙げた。良い点として、吉久の人々の人情味や団結力に魅力があることや、獅子舞、町家とアートを融合させたイベントなど吉久ならではの地域活動が挙げられた。また改善したい点としては、買い物に不便を感じるという意見が最も多く、次いで担い手不足、防災関連、公的環境が挙げられた。意見を集約すると良い点が174、改善したい点は125挙がり、比較的良い点が多く挙げられたものの、改善したい点においては多様な観点からの意見がみられた。

表2 吉久の良いところ

カテゴリー	例
吉久の人々 (44)	人情味がある / お年寄りが元気 / 移住者をを受け入れる度量がある
地域行事 (33)	獅子舞が格好いい / さまのこアートという独自の活動 / 朝市が活発
歴史的町並み(31)	重伝建の町並み / 立派な町屋 / さまのこの古風が感じられる / 細い路地
住環境 (28)	住むには静かで良い / 落ち着きのある雰囲気 / 子供の頃から同じ風景
路面電車 (18)	電停が2つある / ノスタルジックな雰囲気 / 買い物に便利
自然 (9)	川が近い / 庄川の堤防からの景色が綺麗 / 桜並木が美しい
その他 (11)	野菜を作っている人が多い / よっさという呼び名 / 富山大学が近い

表3 吉久の改善したいところ

カテゴリー	例
買い物 (35)	街にお店がない / 買い物難民がいる / 歩いて行ける店がない
担い手不足 (15)	子供の数が少なく将来が不安 / 若者の定住が難しい
防災 (15)	大雪の影響を受けやすい / 海抜0mで津波が心配 / 火災延焼対策
公的環境 (15)	道路が全体的に狭い / 公衆便所がほしい / 公民館の断熱
コミュニティの場 (14)	喫茶店など集まれる場所 / 若い人との交流の場がない
来訪者への取り組み(13)	駐車場が少ない / 町並み案内の看板がない / ボランティアガイド
空き地・空き家 (8)	空き家が多い / 一人暮らしの方が多く / 空き家の活用
地域内交流 (6)	考え方が閉鎖的 / 吉久全体で団結したい
病院 (4)	病院がない / 無くなってから有り難さに気づく

4.2 アンケート結果

第1回よっさまちづくり会議の参加者 55 名に対しアンケートを配布した。回収数は 41 であり、回収率は 74.5%となった。

4.2.1 属性

属性についてのアンケート結果を表4に示す。性別は「男性」が82.9%、「女性」が17.1%と男性の割合が非常に多い。年代は「70代」が39.0%と最も多く、「50代」が26.8%、「60代」が19.5%と続く。構成年代は30代~70代までであり、その内60代以上の参加者が過半数を占めていることがわかる。

職業は「会社員」「主婦(夫)・無職」がそれぞれ31.7%と最も多く、次いで「公務員」「自営業」「パート・アルバイト」がいずれも12.2%を占める。居住地は「高岡市内」が24.4%で最も多く、吉久内に居住する人の割合は約64.0%という結果になった。

4.2.2 イベント参加

イベントへの参加の動機としては複数回答で、「町並み保全に関心があるため」と答えた人が14名で最も多く、これは参加者の36.0%にあたる(図1)。次いで「立場的に参加した方が良かったため」と、「知り合いに誘われたため」が11名、「他の人との交流のため」が8名、「まちづくり活動に参加したいため」が7名であった。また、「その他」の記述として「ネットで知った」や「今年役員になったため」「他地域から」などがあつた。

イベントの満足度としては「非常に満足」が11.8%、「満足」が70.6%、「どちらともいえない」が17.6%、「不満」「とても不満」は0%となった(図2)。これらの理由として、「住民の意見が聞けた」や「充実した話が行われた」、などの意見が挙げられた。

イベントに参加して得た新たな発見や気づきでは、「住民の団結が羨ましい」など住民についての意見が7つ、「まちなかよりも交通が便利であること」など吉久

表4 属性

カテゴリー	アンケート項目	n	%	カテゴリー	アンケート項目	n	%
性別	男性	34	82.9%	居住地	西町	4	9.8%
	女性	7	17.1%		寺中町	1	2.4%
年代	10代	0	0%		本町	5	12.2%
	20代	0	0%		日の出町	7	17.1%
	30代	1	2.4%		御蔵町	4	9.8%
	40代	5	12.2%		第一町	0	0%
	50代	11	26.8%		末広町	2	4.9%
	60代	8	19.5%		さくら台	3	7.3%
	70代	16	39.0%		高岡市内	10	24.4%
	80代以上	0	0%		高岡市外	5	12.2%
職業	会社員	13	31.7%				
	公務員	5	12.2%				
	自営業	5	12.2%				
	主婦	13	31.7%				
	パート・アルバイト	5	12.2%				
	その他	0	0%				

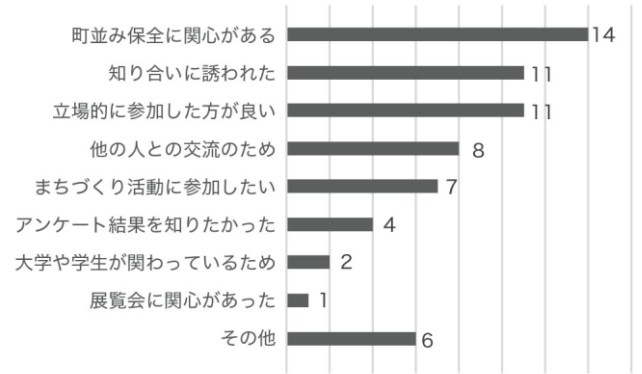


図1 参加の動機

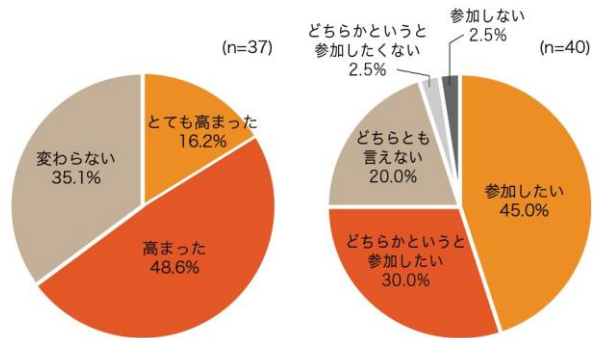


図2 イベントの満足度 図3 これまでの地域活動・まちづくり活動への参加状況

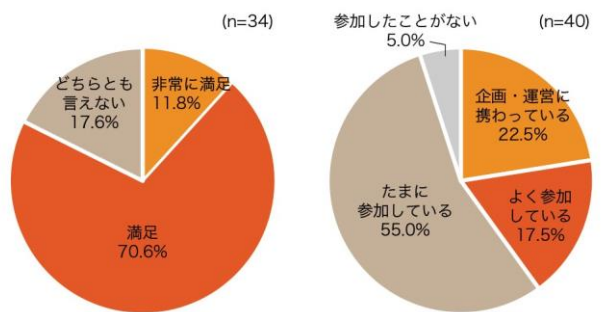


図4 まちづくりへの参加意識の変化 図5 今後の吉久のイベントへの参加意欲

の環境についての意見が5つ、その他「若い感覚で前に進めて欲しい」などの意見が4つ挙げられた(表5)。このように、住民意識を共有することにより新たな課題や肯定的側面を発見できたことがWSの効果として見られた。

#### 4.2.3 まちづくり活動

これまでの地域活動・まちづくり活動への参加状況は、「企画・運営に携わっている」が22.5%、「よく参加している」が17.5%、「たまに参加している」が55.0%、「参加したことがない」が5.0%だった(図3)。地域活動・まちづくり活動に参加経験がある人が95.0%を超え、WS参加者のまちづくり活動への意識の高さがうかがえる。

WSに参加したことによるまちづくりへの参加意識の変化については、「とても高まった」が16.2%、「高まった」が48.6%、「変わらない」が35.1%、「低くなった」「とても低くなった」がともに0%となった(図4)。

今後このような吉久でのイベントに参加したいと思うかについては、「参加したい」が45.0%、「どちらか」として参加したいが30.0%、「どちらとも言えない」が20.0%、「どちらか」として参加したくない「参加しない」がそれぞれ2.5%となった(図5)。WSに参加したことでまちづくりへの参加意識が高まっていることが分かる。また、WSの満足度との関係も明らかとなり、満足度が高い人ほどまちづくりの参加意識が高まり、満足度がどちらともいえない人ほど参加意識は変わらない傾向にあった(図6)。

今後吉久でやってみたい地域活動・まちづくり活動では、「吉久を広く知ってもらうため、飲食(アルコール含む)とセットのイベント、まち歩き万葉線での来街を呼びかける」や、「町歩きや昔の吉久の発掘など」、「8町会でまとまった夜店などの出店等」といった意見が挙げられた(表6)。

### 5 考察

#### 5.1 若者の参加を促す方策検討の必要性

参加住民の年代について、60代以上の参加者が過半数を占めていることが明らかになった。平成31年に開催したよっさまちづくり会議には46名の参加があり、10代から40代までの参加者が11名であったが、全員が吉久以外の地域に居住していた。今回は20代以下の参加者がおらず、30代が1人、40代が5人参加した。しかし30代と40代の1名ずつは吉久住民であるため、少しずつ吉久内でも若い参加者が現れ始めていることがわかる。一方で10代、20代の参加者がおらず、まちの持続性を考えると吉久内の若い世代の参加が必須であるため、吉久内の若い世代をいかに取り込むかが今後の課題である。

表5 新たな発見や気づき

カテゴリー	例
住民について(7)	8自治会の結束が固い。
	住民の団結が羨ましい。
	住民の皆さんの参加が活発。
環境について(5)	60代以降が住民の半数を占めている。吉久の住民だけで企画維持、展開するのは難しいと感じた。グループワークはとても意義のある物だと感じた。
	まちなかよりも交通が便利であること。
	水害対策の必要性や道路の修復、無電柱化など新たな課題を他の人から聞いた。
その他(4)	良いところで万葉線が多く挙げられていた。自然環境が良いとの意見、気づきがあった。
	色々な考え方があったことがわかった。
	関心がなかったけど、関心を持とうとする心が見える。

表6 今後吉久でやりたい地域活動・まちづくり活動

カテゴリー	例
来訪者への取り組み(3)	吉久を広く知ってもらうため、飲食(アルコール含む)とセットのイベント、まち歩き。万葉線での来街を呼びかける。
	シルバー向けの展示、食事、お土産をアピールする。SNSを使えば若い方にも興味を持ってもらえるがシルバーにどうやって認知してもらおうか。
	見学者に応じたガイドボランティア。
吉久内外に向けた活動(3)	広範囲の活動(芸能、イベント)をやりたい。
	町歩きや昔の吉久の発掘など。
吉久内に向けた活動(2)	8町会でまとまった夜店などの出店等。
	大学生に空き家に住んでもらう、イベントの参加企画をしてもらう。
その他(1)	高齢化社会に向けて生きがいのある活動。
	現在のNPO法人吉久みらいプロジェクトの参加を通して吉久の地域活動をしたい。

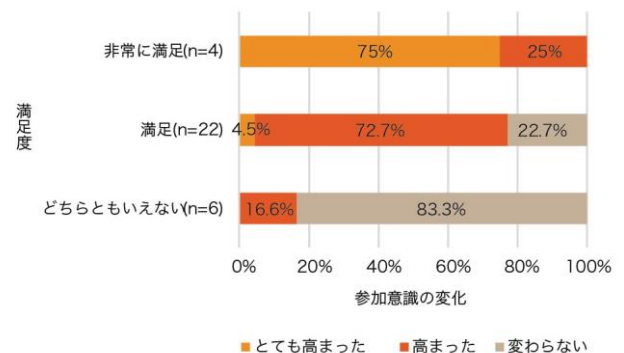


図6 WSの満足度と今後のまちづくりへの参加意識のクロス集計

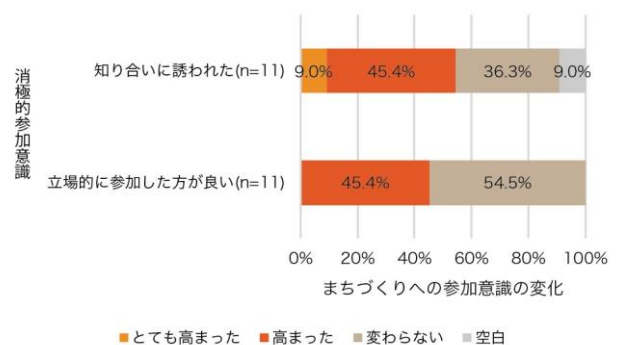


図7 消極的参加動機と今後の地域活動への参加意識のクロス集計

## 5.2 吉久外居住者との協働

居住地に関しては、吉久外居住者が 36.6%を占めている。加えて、参加の動機として「町並み保全に関心があるため」と「まちづくり活動に参加したいため」を選択した参加者のうちそれぞれ半数以上が吉久外居住者であった。これらのことから、重伝建に選定された吉久のまちづくりイベントが吉久外居住者の興味を惹きつけている可能性があることが分かった。一方で吉久まちづくり推進協議会の会員が積極的に吉久外居住者によさまちづくり会議への参加促進の取組を行っており、吉久外居住者の参加が増えているという側面もある。吉久住民からは新たな発見や気づきとして「吉久の住民だけでは企画維持、展開するのは難しいと感じた」という意見も挙げられたことから、吉久住民が吉久外居住者に対し期待感を持っていることが考えられる。吉久住民だけでまちづくり活動を行うのではなく、様々な視点をもった地域外の人々といかに協働でまちづくり活動を行っていくかが今後の課題である。

## 5.3 地域活動参加意欲を高める効果

前述した通り、まちづくり活動や町並み保全に興味がある参加者は吉久外居住者が半数を占め、吉久居住者の多くは「立場的に参加した方が良いため」「知り合いに誘われたため」を選択している。しかし、それらを選択したうちの約半数が今後の地域活動への参加意識が「高まった」、もしくは「とても高まった」を選択した(図7)。さらに、これまでの地域活動への参加状況として、「たまに参加している」「参加したことがない」を回答した参加頻度の低い参加者のうち半数以上が、今後のまちづくり活動に「参加したい」「どちらかというに参加したい」と回答した(図8)。これらのことからよさまちづくり会議が、参加動機が消極的理由であった参加者の地域活動への関心を高めたり、これまで地域活動等への参加頻度が低かった参加者の地域活動・まちづくり活動に参加する意欲を高めたりする効果があることが明らかになった。この結果は、よさまちづくり会議が新たなまちづくりの担い手発掘と、活動体形成を目的とした活動であることを踏まえると、重要な知見である。今後は、このような参加者にいかに継続的に参加してもらうかが課題になると考えられる。

## 6 まとめ

本稿では、第1回よさまちづくり会議の報告と、その効果や課題について明らかにした。

吉久が重伝建に登録され、吉久外からも町並み保全やまちづくり活動に興味を持ち、よさまちづくり会議に

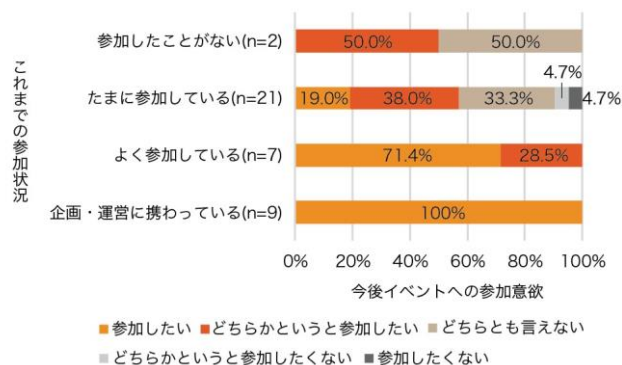


図8 これまでの地域活動への参加状況と今後のイベントへの参加意欲のクロス集計

参加している人がいることが明らかになった。また、吉久住民が吉久外からの参加者に期待感を持っていることも推察された。町並み保全意識の高い吉久外居住者との交流は、吉久住民が新たな視点で吉久のことを考え、客観的に吉久の価値を認識する作用があると考えられ、吉久住民にとっても有意義な議論を生み出したことが考察される。

よさまちづくり会議では新たな担い手発掘と活動体形成に向け、これまで積極的にまちづくり活動に参加していなかった層の活動意識を高める効果が見込まれることが明らかになった。一方で吉久住民の参加、特にこれからのまちづくりの担い手となる若者の参加が不足していることも分かった。WSにおいても担い手不足は「吉久の改善したいところ」として多く挙げられており、吉久住民も危機感を持っている。よさまちづくり会議での活動や得られた結果などを効果的に住民に還元し、若者の参加者を増やしていく取組が今後重要になると考えられる。

## 参考文献

- 1) 亀山文音,北野まつ葉,藪谷祐介:重要伝統的建造物群保存地区における住民の町並み保全意識-高岡市吉久における事例研究その1-,日本建築学会北陸支部研究報告集第64号,pp.244-247,2021年
- 2) 北野まつ葉,亀山文音,藪谷祐介:重要伝統的建造物群保存地区内外における住民意識の相違-高岡市吉久における事例研究その2-,日本建築学会北陸支部研究報告集第64号,pp.248-251,2021年
- 3) 外石広美,藪谷祐介,串田優衣,高橋沙綾,萩野紀一郎:地域と大学の協働によるまちづくりワークショップの可能性-第1回「よさまちづくり会議」を事例として-,日本建築学会北陸支部研究報告集第62号,pp.395-398,2019年

\*富山大学芸術文化学部 学部生

\*\*富山大学大学院芸術文化学研究科 大学院生

\*\*\*富山大学学術研究部芸術文化学系 講師

Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama  
Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama  
Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama